

## 共同研究会活動報告

UDC 621.771.251.26(047)

## 最近の条鋼部会活動報告

部会長 浅田 幸吉\*

## Report of the Section and Wire Rods Committee of the Joint Research Society of ISIJ

Kokichi ASADA

日本の鉄鋼業は過去 20 年間に飛躍的な進歩を遂げてきたが、これのバックグラウンドとして鉄鋼業界内の技術交流会である共同研究会の役割は大きい。条鋼部会は鋼板部会、鋼管部会と並び、加工、圧延工程の技術の進歩に少なからず貢献してきているが、特に製造技術面での主流を占める現場技術者間での会社の枠を超えた忌憚のない意見の交流、情報交換による成果は、会員会社のみならず広く関連の技術者、研究者の参考となるところであろう。

当条鋼部会は、大形、中小形、線材の三分科会より構成されており、分科会単位での活動が行なわれている。大形分科会は発足後 11 年、中小形、線材分科会は約 20 年という歴史を持ち、それぞれ独自の個性のある運営方法により会員相互のレベルアップを計ってきた。

この度、各分科会主査より主に最近の 3 年間を中心とした活動報告をとりまとめていただいた。品質、歩留、原単位の向上という不変のテーマとともに、各時期の要請に即応した up-to-date な要素も折りこんだ報告となっており、近年の条鋼圧延技術の実態及び今後の動向を把握する意味でも良き参考となれるものと思われる。

## 大形分科会活動状況報告

主査 渡辺 秀夫\*\*

## Report of the Large Sections Subcommittee of the Section and Wire Rods Committee of Joint Research Society

Hideo WATANABE

## 1. 概 要

当分科会は昭和 39 年 6 月、第 1 回分科会を加盟 6 社 11 工場で開催して以来、22 回の研究会を開催してきた。発足当時は、ちょうどわが国における H 形鋼生産の開始時にあたり、本格的ユニバーサル圧延設備をもつ工場はわずかであった。爾後 11 年、H 形鋼需要の大幅な伸びとともに多くのユニバーサル・ミルの新設あるいは改造

が行なわれ、形鋼圧延方式の基本的な改革が行なわれた時期でもあった。当分科会も現在加盟 10 社 22 工場を数えるに至った。

加盟工場は、最新のユニバーサル圧延設備を持つ H 形鋼中心の量産タイプのもの、2 重あるいは 3 重圧延機を持つ少量多品種生産タイプのものであり、更に生産規模も 10 万トン/月から 1 万トン/月、製品サイズも 1 M 当りの重量が 200 kg を超えるものから 10 kg 程度の

\* 日本鉄鋼協会共同研究会条鋼部会部会長 (株)神戸製鋼所専務取締役

\*\* 日本鉄鋼協会共同研究会条鋼部会大形分科会主査  
新日本製鉄(株)広畑製鉄所副所長